

BUNGAKUZA TSUSHIN 2025.9 Vol.793

文学座通信

- アトリエの会『野良豚 Wild Boar』
Back to the beggining... "a Wild Boar" —インディー・チャン... 1
出演者コメント..... 2~3
公演情報..... 4
- 地方公演 5
『欲望という名の電車』『昭和虞美人草』
- 本公演・地方公演『華岡青洲の妻』..... 6~7
- アトリエ短信..... 8

Back to the beggining ... "a Wild Boar"

インディー・チャン

わたしは香港で生まれ、香港で育ちましたが、マンガやアニメを通して、子どもの頃から日本の文化に触れていました。大学卒業後、念願だった日本留学の夢を叶えました。当時は香港演劇についての知識はほとんど持っておらず、日本というのはマンガやドラマの世界の向こう側、夢の国のような存在でした。

留学中、学割で舞台鑑賞をする機会が多く、日本の演劇に魅了されました。やがて演出を勉強しようと思い、文学座に入りました。と同時に、日本で暮らす時間の中で、画面越しではない実際の日本を少しずつ知り、この国に対する思いが増していきました。

少子化問題、貧富の差などの社会的課題を抱える場所。同じアジアに位置する国・地域として、日本と香港は実はとても似ていて、日本の人びとの社会への関心が少ないところは、ひと昔前の香港を思い出します。

文学座の演出部としてあくせく働いている最中に、香港で大きな社会運動が再び起きました。自分の香港人としてのアイデンティティが蘇り、その眼をもう一度日本に向けたとき、また違う風景が見えるようになりました。

2022年6月、『野良豚 Wild Boar (原題:野猪)』はコロナ禍の中、香港で出版されました。莊梅岩さんのファンだった私は、すぐに香港にいる友人に「とりあえず3冊買って送って」と頼みました。手元に届いた戯曲を読んでもみると、それは架空の“このマチ”で起きた記者たちの物語でした。社会の変化によって、おそらく香港ではもう上演できないであろうこの作品を、いつか日本で上演したいと強く思いました。

そして、時が来たのは2023年。BBC がジャーニー喜多川による性加害のドキュメンタリーを公開し、ようやく日本メディアの闇が暴かれ、人びとは一時メディアの実態に目を向けました。調べてみると、日本の報道の自由度は世界で68位(2023年時点)。日本のメディア業界も『野良豚』の“このマチ”のように、ずいぶん昔から、純粹に市民のために情報を提供する存在ではなくなっていたのです。簡単に解消できない記者クラブの問題、大手企業や政府とマスメディアの癒着が、メディアを縛り続けています。しかし、それはメディアと企業を単純に「悪」と敵視して打ち倒すものとも違う。『野良豚』を読めば読むほど、考えさせられます。

市民のためのメディアのあり方は、一人一人の物語を大切にすることこそ、見出せるもの。

今回の『野良豚』の上演にあたって、「声」を聴くことが自分のテーマです。大きな「社会」というものをバラバラにし、人間の心の奥にある欲望と理想、苦しみと愛、人が現実世界で

もがいている生きざまを描くことで、わたしたちは、生まれたての瞬間のような初心を思い出せるのではないのでしょうか。そして、芯にある一番大事なものを見つけ、それを抱きながら、先に進めると思います。

何かの信念を持つことは、その反対の信念を持つ人を否定してしまう恐れがあります。そうならないように、誰もが声を上げられるような空間、自分の声が大事だと思える場所を、文学座アトリエでつくれたら……。



野良豚

Wild Boar

文学座9月アトリエの会

後援 新宿区

作 莊梅岩 Candace Chong Mui Ngam

訳・上演台本・演出 インディー・チャン Indi Chan

9月9日(火)~21日(日)

信濃町 文学座アトリエ



アトリエ短信

■映画『SENSEKI』上映情報

江戸時代の蘭学者で、古河藩の家老を務めた鷹見泉石。その晩年を描いた映画『SENSEKI』が

上映されます。2022年に亡くな

った渡辺徹が構想し、文学座と

地元の有志、ホリプロの全面協力

のもと、古河市内で撮影された。

脚本は瀬戸口郁が担当。鷹見泉石

役のたかお鷹をはじめ、富沢亜古、

池田倫太郎、日景温子、森寧々ほか、

文学座の俳優陣が出演しています。

◇9月13日(土)〜19日(金)

※モーニングショー10時から

◇新宿 K's cinema ケイズシネマ

■文芸研究委員会10月座内勉強会

文芸研究委員会の座内勉強会と

して「長崎被爆者交流証言者講話

と田中千禾夫『マリアの首』の一部

本読み会を開催いたします。座内

向けの勉強会ですが、パートナー

ズ倶楽部や支持会員の皆様もご参

加いただけます。

◇10月5日(日) 11時〜15時(予定)

◇立教大学 池袋キャンパス5号館

1階 第一会議室 ※場所は文学座で

はございませんのでご注意ください。

◇第1部 11時〜12時

長崎被爆者交流証言者による講話

講師 横山理子氏(交流証言者)

◇第2部 12時半〜15時

田中千禾夫『マリアの首』一部の

本読み会(作品の一部を参加者全員

で声に出して読みます)

※それぞれ開始30分前開場。どちらかのみの参加、第2部は途中入退出も可能です。

◇定員 各部 先着20名(無料)

◇お申し込み 申込フォームからお

申し込みください。

※文芸研究委員会専用アドレ

スも可(担当・水野)

03-33353-3567

◇bungei10monthteam@gmail.com

締切 9月29日(月) 17時まで

◇お問い合わせ

文芸研究委員会 文芸企画チーム

◇bungei10monthteam@gmail.com

■子ども向け演劇ワークショップ

シアターゲームや戯曲を用いた作

品づくりを通して、子どもの表現力

と想像力を高め、最後には俳優とミ

ニ発表会に挑戦します。演劇が初め

てのお子様にも丁寧にアプローチし

ます。

◇10月18日(土) 13時〜17時(予定)

◇新宿文化センター小ホール

◇料金 1,000円

◇講師 高柳絢子、日景温子、杉宮

匡紀(演技部)

◇対象 小学3年生〜中学3年生

(新宿区内在住・在学の方優先)

◇定員 25名

(応募者多数の場合は抽選)

◇お申し込み HPをご覧ください

ください(9月20日締切)

◇お問い合わせ

03-33350-1141

(新宿文化センター仮事務所 平日9時〜17時)



◎追加情報は文学座HPにて

出演情報

★乃村美絵：『ハリー・ポッターと呪いの子』(J.K.ローリングオリジナルストーリー、ジャック・ソーンオリジナルストーリー・脚本、小田島恒志・小田島則子訳、ジョン・ティファニー オリジナルストーリー・演出) 2024年7月〜 TBS赤坂ACTシアター

★後田真臥：『その鉄塔に男たちはいるという』(土田英生作・演出) 9/3〜9 シアターブラッツ(新宿一丁目)

★横山祥二、山下瑛司：『あの夏、君と出会えて〜幻の甲子園で見た景色〜』(羽原大介作、木村弥寿彦演出) 9/6〜14 大阪松竹座、9/20 金沢市文化ホール(石川)、9/23 広島国際会議場フェニックスホール、9/26〜28 御園座(愛知)

★鬼頭典子、村上佳：朗読群像劇『言葉のラビリンス《迷宮》』(石原由理脚本・演出) 9/7 北とぴあ つつじホール(王子)

★栗野史浩、松岡依都美：『きらめく星座』(井上ひさし作、栗山民也演出) 9/7〜22 紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYA * ほか

*紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYAの公演には文学座支持会、パートナーズ倶楽部

会員様の特別割引があります。詳細はこまつ座 TEL03-3862-5941 まで

★sara：ミュージカル『once』(エンダ・ウォルシュ脚本、グレン・ハンサード／マルケタ・イルグロヴァ音楽・歌詞、ジョン・カーニー原作(映画『ONCE ダブリンの街角で』脚本・監督)、一川華訳・訳詞、稲葉賀恵演出) 9/9〜28 日生劇場 10/4・5 御園座(名古屋)、10/11〜14 梅田芸術劇場(大阪)、10/20・21・23〜26 博多座(福岡)

★瀬戸口郁、山崎美貴：『夜の来訪者』(J.B.プリーストリー作、内村直也訳、八木柊一郎脚本、西川信廣演出) 9/11〜12/14 全国演鑑連

★武田知久：『夏の夜の夢』(W.シェイクスピア原作、小田島雄志訳、岩崎う大上演台本、シライケイタ演出) 9/13 メディキット県民文化センター(宮崎)、9/23〜10/11 座・高円寺1

★廣田高志、木津誠之：『中村仲蔵〜歌舞伎王国 下剋上異聞〜』(源孝志脚本、蓬萊竜太演出) 9/13〜21 上海交通銀行前滩31 文化芸能センター(中国・上海)

★大石英玄：『ロミオとジュリエット』(W.シェイクスピア原作、小田島創志訳、大澤遊演出) 9/20〜28 水戸芸術館 ACM劇場(茨城)

★目黒未奈：『洪水の前』(矢代静一脚本、藤田敏雄脚本・作詞、鶴山仁演出) 9/20〜10月末 九州演鑑連

★神野崇：『血を売る男』(ユイフォア 余華原作、飯塚容訳、松本祐子脚本・演出) 9/25〜30 シアターX(両国)

★石森咲妃：『私はスター』(山崎洋平作・演出) 10/1〜5 浅草九劇

★萩原亮介：『人魚の海』(太宰治原作(『新釈諸国断』より)、五戸真理枝脚本・演出) 10/4〜13 川崎市アートセンター

★櫻井章喜：『焼肉ドラゴン』(鄭義信作・演出) 10/7〜27 新国立劇場 ほか

★横田栄司、比嘉崇貴：『リア王』(W.シェイクスピア作、フィリップ・ブリーン上演台本・演出) 10/9〜11/3 THEATER MILANO-Za(新宿) ほか

★沢田冬樹：『ロンリー・アイランド』(川村毅作・演出) 10/10〜19 ザ・スズナリ(下北沢)